

発行 宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801  
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢 41  
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料：無料  
利用時間：4月～10月/9時～16時30分  
11月～3月/9時～16時



記録的な猛暑も過ぎ、ようやく歩きやすい毎日となりました。  
成熟に向い日々変化している種子たちや、数少ない秋の植物たちが深緑のなかで開花しています。  
涼しくなった園内をゆくりと楽しまれては如何でしょうか。(所長：蜂谷仁)

### スズメバチの活動が活発になる季節です!

8～10月にかけての働きバチが増える時期は、特にハチの攻撃性が強くなりますので、園内散策の際には十分お気をつけ下さい。ハチが寄って来ると、恐怖からつい悲鳴を上げてしまったり、手で振り払ったり、走って逃げたりしてしまいますが、ハチは大きな音や素早い動きに対して敏感です。**顔を隠して低い姿勢を取り、じっと動かさず**ハチが去るのを待ってから、ゆっくりとその場を離れましょう。

※巣を刺激してしまい大群に襲われた場合は、タオルなどで振り払いとにかく逃げましょう!



オオスズメバチ  
土の中に巣を作ります



キイロスズメバチ  
軒下や天井裏などに巣を作ります

### カエントケを見つけたら

カエントケの毒性は非常に強く、触るだけでも皮膚の炎症を引き起こし、食べれば死に至る大変危険な猛毒キノコです。

その名があらわす通り、全体がまるで燃え上がる炎のようで、形は鹿の角またはふっくらとした手の指のように枝分かれしています。

もし園内で見つけた場合は、絶対に触らずにすぐに管理事務所までお知らせ下さい。



### 今月のけんみんのもり写真館 スタッフが見つけたしぜんのひとコマ



コブシ (モクレン科)  
辛夷

名前は果実の形が拳に似ていることによる。漢名の“辛夷”は中国の別の植物名を誤用したもの。春は白い花を、秋には握りこぶしに似た赤い果実をつけています。中央記念館東アスレチックコース側に植栽されています。(駒野)



ツリバナ (ニシキギ科)  
吊花

一度見たら忘れられない花で、蒴果は紅色に熟し5裂し、橙赤色の仮種皮に包まれた種子が見えます。ぶら下がる果実や紅葉が美しく、風情があるので庭木として植えられています。(駒野)

### 県民の森名木紹介 vol.46 アオギリ

この樹の若木は、木肌も光合成を行うために、きれいな緑色になることから三大美幹の1つにあげられるなどかなりユニークな樹です。

その極め付けは、秋、実らせる変わった形の実です。舟形の五辺の内側のへりに

数個豆粒ほどの種を付ける様子は珍しい。この秋、実物ぜひをご覧くださいと思います。駐車場北側にあります。

また、広島では、被爆樹木の一つとして大切に、保存育樹されていることでも有名です。(工藤)



ツルニンジン (キキョウ科)  
蔓人參 シイソブ

名前は根が朝鮮人參に似ていることによります。別名はバア(婆)に対しジイ(爺)、ソブは木曾地方の方言で“そばかす”のこと。花冠の内側の斑点を顔の“そばかす”に例えたものです。悪臭があり、ツルを切ると白い乳液が出る、この乳液は切り傷に効くそうです。因みにバアソブは宮城県では絶滅危惧1類です。(駒野)



オヤマボクチ (キク科)  
雄山火口 別名ヤマゴボウ

名前は火打石の火花をこの葉の綿毛でとり、燃えるものに火をつける。雄山(御山)に生える火口(ぼくち)になることからオヤマボクチです。また別名で炎草草ともいう。若い葉はヨモギと一緒に草餅として利用されます。(駒野)



中央記念館入口の窓ガラスに張り付いていたヤブキリを発見。ガラスにいるということは、裏面からも見られるのでは?!と反対側に回ってみると、ばっちり観察し放題です。肉食のヤブキリには手にとげとげがあり、このとげで獲物を逃がさずしっかりと捕らえます。



ちなみに植物を食べるバッタには、とげとげがほぼありません。(入岡)

写真左：ヘリグロツユムシ